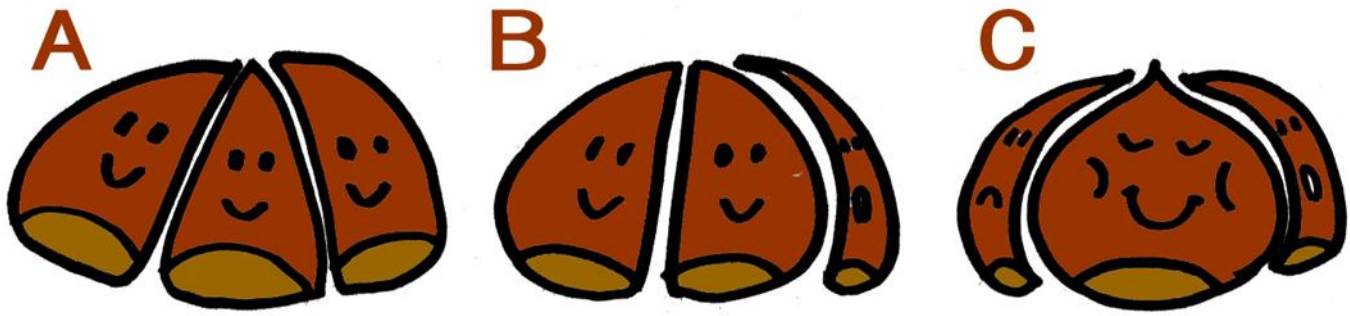
「日々の理科・田中」（第 117 号） 2014（H26）,10,15

「三日月栗の魅力」

イガに入った状態のクリをよく観察すると、いろいろな形のクリが入っています。この「クリ」は一見「種子」に見えますが、実は「クリ」自体が果実（堅果）です。つまり「クリの実を食べる」という表現は、誤りではありません。クリも、ドングリと同じ「ブナ科」の植物です。周囲の「イガ」は、殻斗（かくと）または殻斗果（かくとか）と呼ばれ、ドングリでいうと「帽子」の部分に相当します。正確に言うと、「イガ」が殻斗、「イガ＋クリの実」が殻斗果となります。そのイガの中には大抵３個のクリの実が入っています。これは、クリの雌花に子房が３個あることが多いからです。しかし、３個のクリの実のすべてに、均等に養分がゆき渡るとは限りません。



３個のクリの実に均等に養分がゆきわたれば、Ａの図のように、真ん中が三角形で両側は半月型のクリになります。これが一番理想で、野外で栗拾いをした時、一番嬉しいのがＡですね。ところが、Ｂの図のように、２個のクリの実だけに養分がいってしまい、残り１個はアウト！というクリもあります。栄養をもらえなかったクリの実は、端ッコでつぶされたようになってしまいます。これが「三日月栗」です。横から見ると三日月のようなので、子どもたちがそう呼んでいるのです。

中には、Ｃの図のように、真ん中の１個に養分がほとんどいってしまい、両側の２個が「三日月化」しているものもあります。
（田中も同僚の話を聞いていて、時々三日月化しています。）

「三日月栗」
役にたたないクリですが、子どもたちには意外に人気があります。

「山栗のイガ付きのクリの実」　これはタイプＢで、一番右が「犠牲者」の「三日月栗」

「普通のクリの実と三日月栗の断面比較」

三日月栗はみじめなクリですが、果実であることは事実です。こんな状態でも発芽するのでしょうか？試しに断面を比較してみましたが、やはり三日月栗には、食べられる部分は全くありませんでした。恐らく発芽はしないでしょう。

こんな薄っぺらで、変な形のクリの実---子どもたちは見向きもしないと思ったら、意外や意外、結構人気があるのです。中には、クリの箱の中から「三日月栗」ばかり集めている子もいます。子どもの興味というのは、本当に教師を驚かせます。

【子どもの観察カード・ノートから（３年生）】
・「くりのいがの中には、３このくりが入っていました。とげがいたくて手でとれないので、ゆかにおいて、上ばきでふんで、やっと出しました。２個はふつうのくりで、１個はうすべったいのでした。つぶされたみたいなかんじで、ちょっとかわいそう。」
・「ともだちがミカズキ（ミカヅキ）グリを持っていたので、私もほしくなりました。私がもらったくりは、ミカズキグリが２こも入ってました！！ラッキーなくりでした。」
・「三日月グリはうすいので、はさみでかんたんに切れました。切っただんめんを見たら、中みは何もなくて、かわとしぶ（皮と渋）だけでした。」
・「わたしは、ドングリから目（芽）が出てるのを見たことがあります。クリも目（芽）が出るかな？でも三日月クリはむりっぽいです（無理だと思います）。」

（お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋）